

釧路・根室地域における道路啓開計画

～大規模地震・津波に備えて～

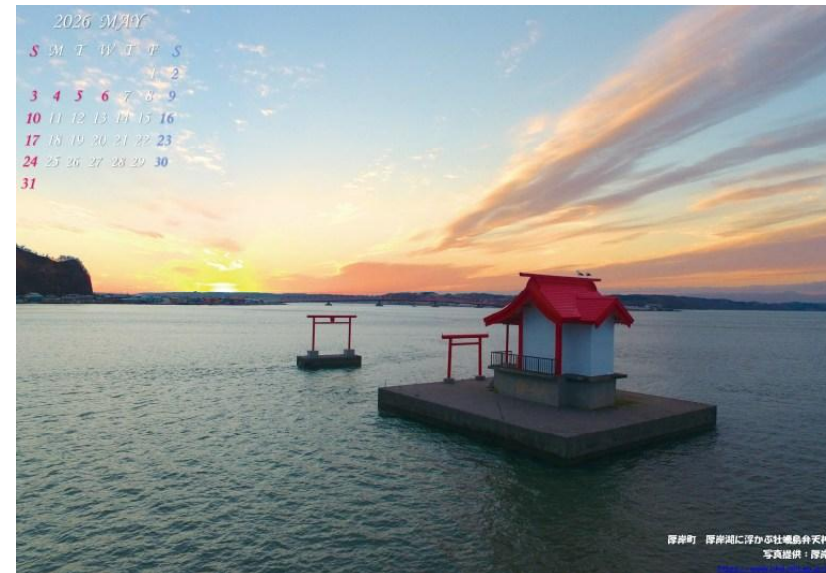
1. 釧路・根室地域の概要
2. 釧路開発建設部管内の概要
3. 道路啓開とは
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)
5. 全国各地域の道路啓開計画について
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

釧路・根室地域における道路啓開計画 ～大規模地震・津波に備えて～

1. 釧路・根室地域の概要
2. 釧路開発建設部管内の概要
3. 道路啓開とは
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)
5. 全国各地域の道路啓開計画について
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要



釧路町 別保公園 写真提供: 釧路町



厚岸町 厚岸湖に浮かぶ牡蠣島弁天神社 写真提供: 厚岸町

1. 釧路・根室地域の概要

位置	管内は北海道の東部に位置し、釧路・根室地方の全域を含む計13市町村の地域を所管している。
面積	釧路・根室管内の面積は、北海道の17.4%を占めており、他の都道府県と比較すると、一都三県（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）の面積（13,570.72km ² ）よりも広い。

釧路・根室管内 2市10町1村

総面積/14,495.66km² 総人口/271,116人



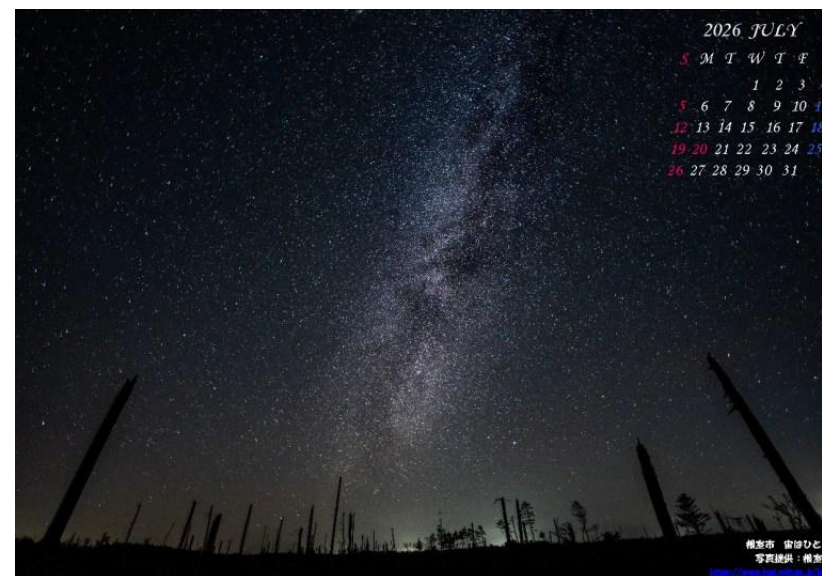
出典：釧路開発建設部
-せんけんフォーサイト-HP 2

釧路・根室地域における道路啓開計画 ～大規模地震・津波に備えて～

1. 釧路・根室地域の概要
2. 釧路開発建設部管内の概要
3. 道路啓開とは
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)
5. 全国各地域の道路啓開計画について
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要



標津町 標津サーモン科学館敷地 写真提供: 標津町



根室市 宙はひとつ 写真提供: 根室市

2. 釧路開発建設部管内の概要(災害)

令和7年の事例

【豪雨による災害】



道東道土砂流出



R392土砂流出



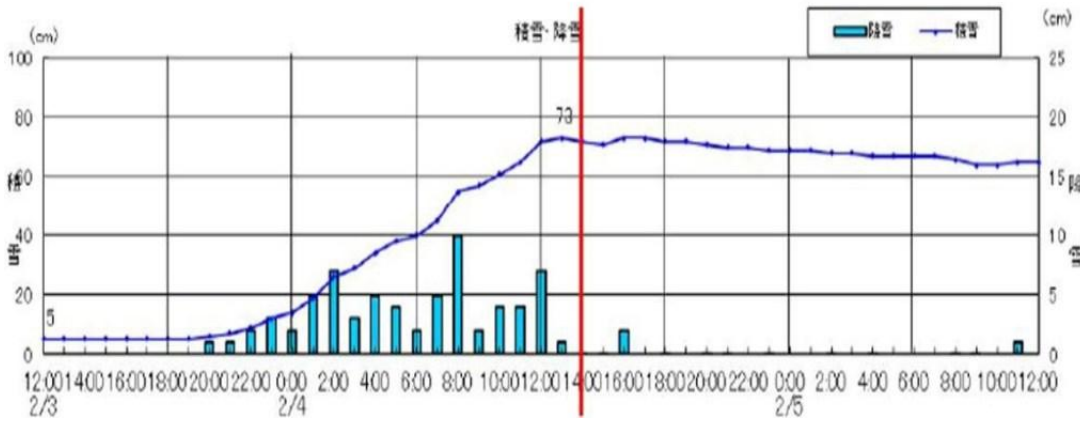
【大雪による災害】



R38 トレーラスタック



道東道 表層雪崩



2. 釧路開発建設部管内の概要(地震)

政府の地震調査研究推進本部 公表 (2026. 1. 14)

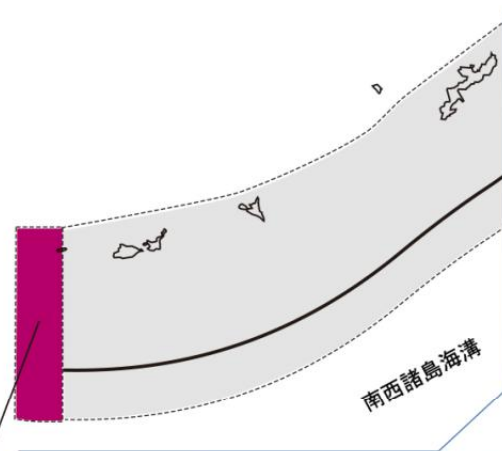
2026年1月14日公表

凡 例

- Ⅲランク（高い）：30年以内の地震発生確率が26%以上
- Ⅱランク（やや高い）：30年以内の地震発生確率が3～26%未満
- Ⅰランク：30年以内の地震発生確率が3%未満
- Xランク：地震発生確率が不明（過去の地震のデータが少ないため、確率の評価が困難）

ランクの算定基準日は2026年1月1日

- ・Ⅲランク、Ⅱランク、Ⅰランク、Xランクのいずれも、すぐに地震が起こることが否定できない。
- ・また、確率値が低いように見えても、決して地震が発生しないことを意味するものではない。
- ・新たな知見が得られた場合には、地震発生確率の値は変わることがある。



与那国島周辺

M7.0～7.5程度 Ⅲランク

【与那国島周辺の過去の地震例】

1919年から現在までに12回

青森県西方沖から北海道西方沖

M7.5～7.8程度 Ⅰランク

秋田県沖から佐渡島北方沖

M7.5～7.8程度 Ⅱランク

新潟県北部沖から山形県沖

M7.5～7.7程度 Ⅰランク

日本海東縁

北海道北西沖

M7.8程度 Ⅰランク

【千島海溝の17世紀型の地震例】

17世紀：十勝沖から根室沖

千島海溝の17世紀型

M8.8程度以上 Ⅲランク

根室沖から

色丹島沖及び択捉島沖

M8程度 Ⅲランク

十勝沖

M8程度 Ⅱランク

【千島海溝の過去のM8程度の地震例】

1843年：根室沖
1894年：根室沖
1952年：十勝沖
1973年：根室沖
2003年：十勝沖

釧路・根室地域の
太平洋沿岸は全て

Ⅲランク

⇒地震発生
確率が高い

※30年以内の地震発生確率：Ⅲランク26%以上、Ⅱランク3～26%未満、Ⅰランク3%未満

2. 釧路開発建設部管内の概要(災害)

政府の地震調査研究推進本部 公表 (2026. 1. 14)

領域または地震名		長期評価で予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の海溝型地震の相対的評価（注3）				地震後 経過率 （注2）	平均発生間隔（注1）	
			地震発生確率（注1）			最新発生時期（注13）			
			10年以内	30年以内	50年以内				
千島海溝沿いの地震（第三版）	超巨大地震 （17世紀型）（注4）		8.8程度以上	Ⅲ＊ランク	2%～10%	7%～40%	10%～60%	1.02-1.20	約340年-380年 ----- 17世紀
	十勝沖		8.0～8.6程度	Ⅱランク	0.9%	20%程度	50%程度	0.28	80.3年 ----- 22.3年前
	根室沖		7.8～8.5程度	Ⅲ＊ランク	30%程度	90%程度	90%程度以上	0.81	65.1年 ----- 52.5年前
	色丹島沖及び択捉島沖		7.7～8.5前後	Ⅲランク	20%程度	60%程度	80%程度	—	35.5年 ----- —
	小さいプレート間地震 （ひとまわり）	十勝沖・根室沖	7.0～7.5程度	Ⅲランク	40%程度	80%程度	90%程度	—	20.5年 ----- —
		色丹島沖・択捉島沖	7.5程度	Ⅲランク	50%程度	90%程度	90%程度以上	—	—
	十勝沖から択捉島沖の 海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）		Mt8.0程度（注9）	Ⅲランク	20%程度	50%程度	70%程度	—	—
	沈み込んだプレート内の やや浅い地震		8.4前後	Ⅲランク	10%程度	30%程度	40%程度	—	—
	沈み込んだプレート内の やや深い地震		7.8程度	Ⅲランク	20%程度	50%程度	70%程度	—	—
海溝軸の外側で 発生する地震（注5）		8.2前後	Xランク	—	—	—	—	— ----- —	

根室沖地震
30年以内の発生確率が
80%程度⇒90%程度
となった

根室沖地震
30年以内の発生確率は
80%程度⇒90%程度
となった

2. 釧路開発建設部管内の概要(災害)

地域特性

- ✓ 釧路・根室地域は広域かつ人口が沿岸部に点在しており、地震・津波により道路網が寸断された場合、孤立地域の発生や救助・救援活動の遅延による**被害の拡大・長期化が懸念される。**

冬季の厳しい自然条件

- ✓ 冬季に大規模地震が発生した場合、地震・津波による道路構造物の被害に加え、積雪、流氷、暴風雪等の影響により交通障害が深刻化し、**災害対応に更なる支障を及ぼすおそれがある。**

今後危惧される大規模地震・津波発生時に備え、釧路・根室地域を含む北海道内の被災地において迅速な道路啓開を可能とするため、啓開の基本的な考え方、実施手順及び平時から備えるべき事項を定めた
「道路啓開計画」を策定。

釧路・根室地域における道路啓開計画 ～大規模地震・津波に備えて～

1. 釧路・根室地域の概要
2. 釧路開発建設部管内の概要
3. 道路啓開とは
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)
5. 全国各地域の道路啓開計画について
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要



標茶町 塘路湖 写真提供: 標茶町

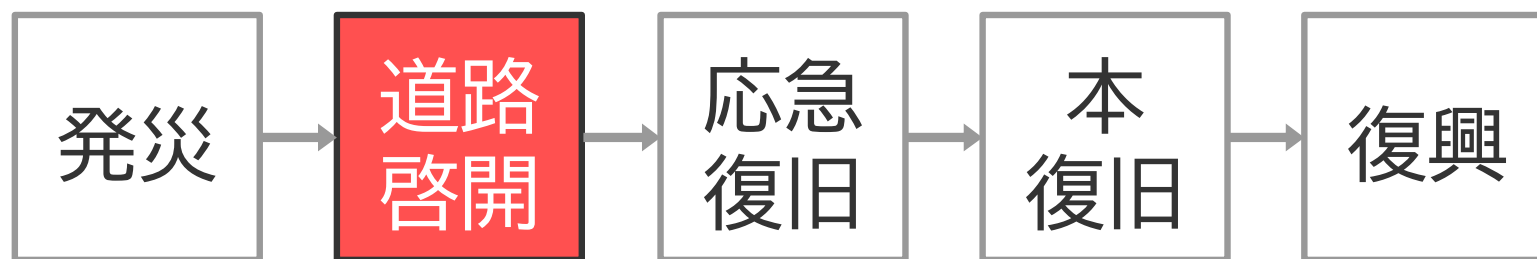


中標津町 モアン山 写真提供: 中標津町

3. 道路啓開とは

道路啓開とは

- 緊急車両の通行を確保するため、発災直後から道路上に堆積した土砂やガレキ等の障害物を除去し、段差を解消するなどして、被災地への救援ルートを開き切る作業をいう。



図：道路啓開の位置づけ 発災から復興までのフロー



被災直後



啓開作業



道路啓開作業後

釧路・根室地域における道路啓開計画 ～大規模地震・津波に備えて～

1. 釧路・根室地域の概要
2. 釧路開発建設部管内の概要
3. 道路啓開とは
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)
5. 全国各地域の道路啓開計画について
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要



釧路市 釧路川 写真提供:開建職員



浜中町 霧多布湿原 写真提供:浜中町

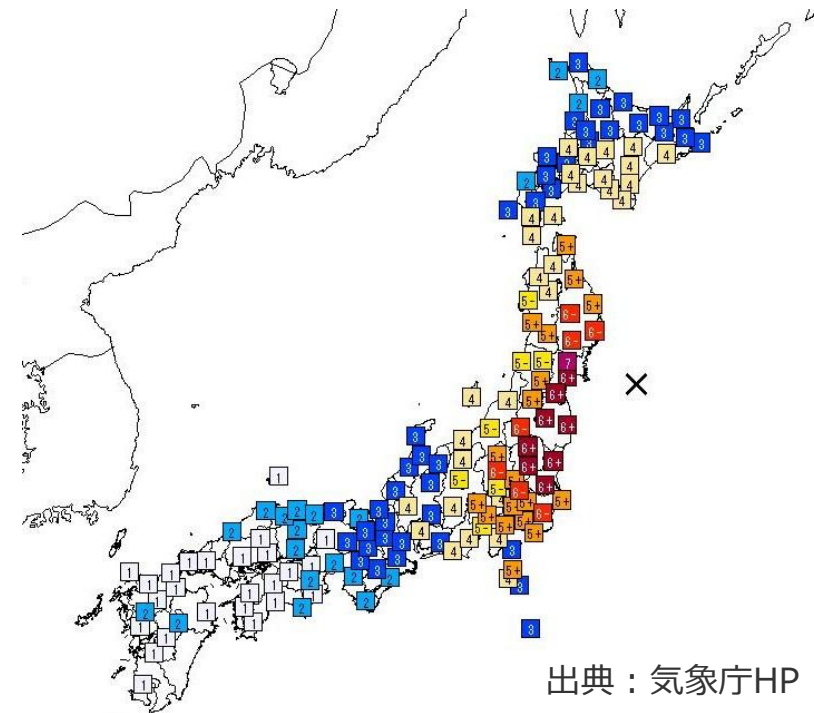
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

東日本大震災の事例 (くしの歯作戦)

東日本大震災の概要

- 発生日時: 2011年3月11日14時46分頃
- 震源: 三陸沖 約130km付近 深さ24km
- 震度: 最大震度7(宮城県栗原市)
- マグニチュード: 9.0 (日本国内観測史上最大規模)
- 死者数: 19,747人※1
- 行方不明者: 2,556人※1

※1: 令和4年度版国土交通白書より引用



出典: 気象庁HP



出典: 内閣府HP, 田老町漁業協同組合提供(岩手県宮古市田老)



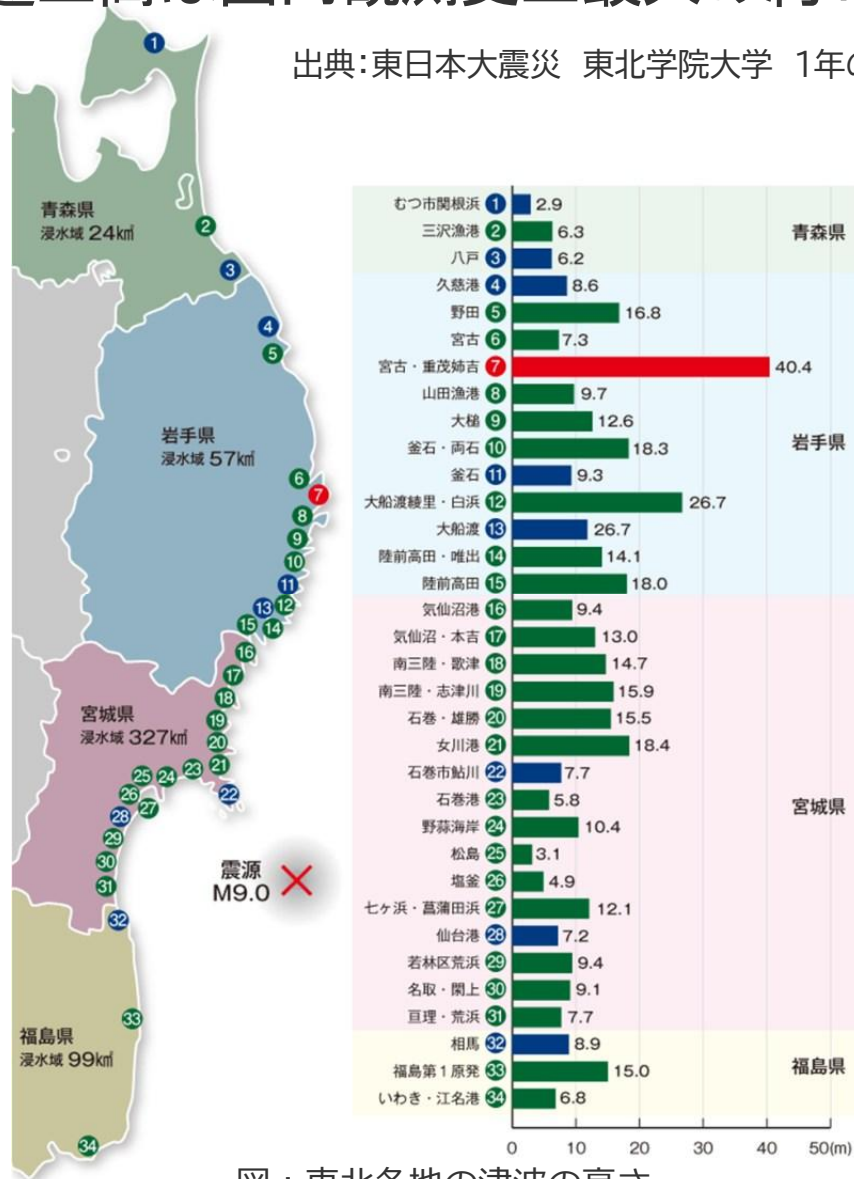
出典: 東北地方整備局(宮城県石巻市)

4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

東日本大震災の事例 (くしの歯作戦)

各地で10～20m級の津波が来襲
遡上高は国内観測史上最大の約40mを観測

出典: 東日本大震災 東北学院大学 1年の記録HP



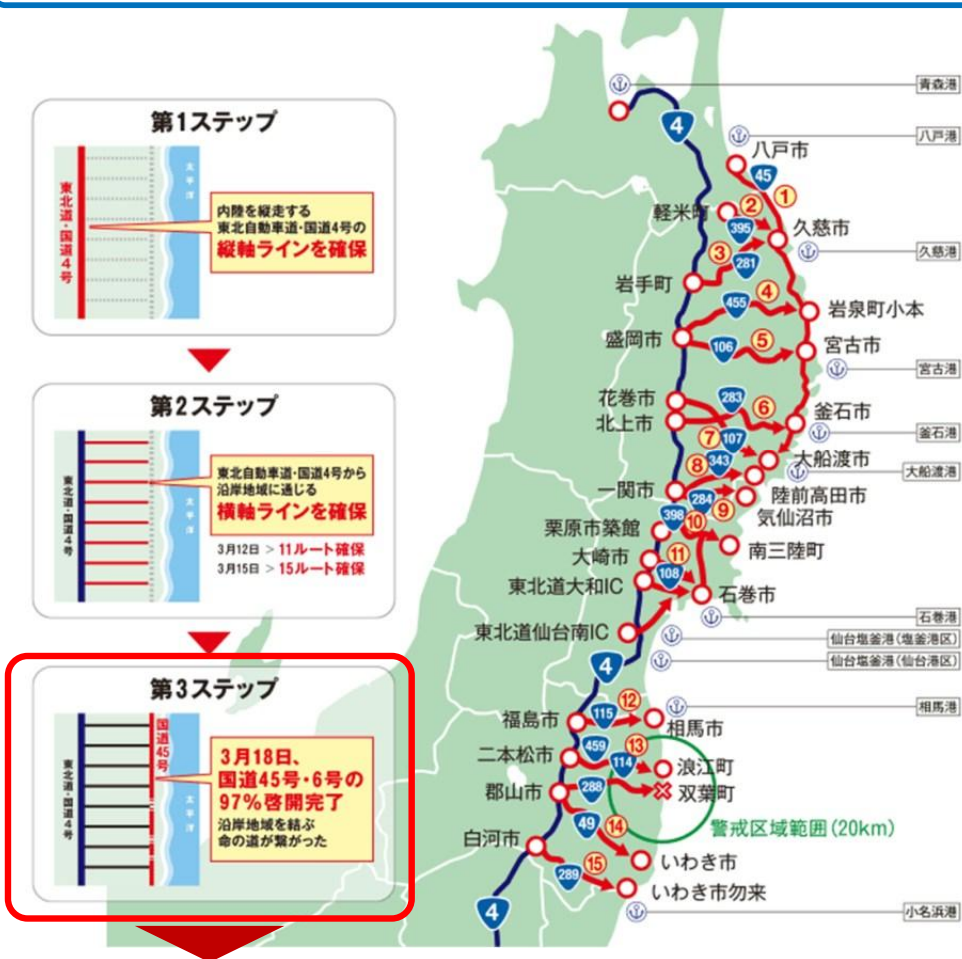
図：東北各地の津波の高さ



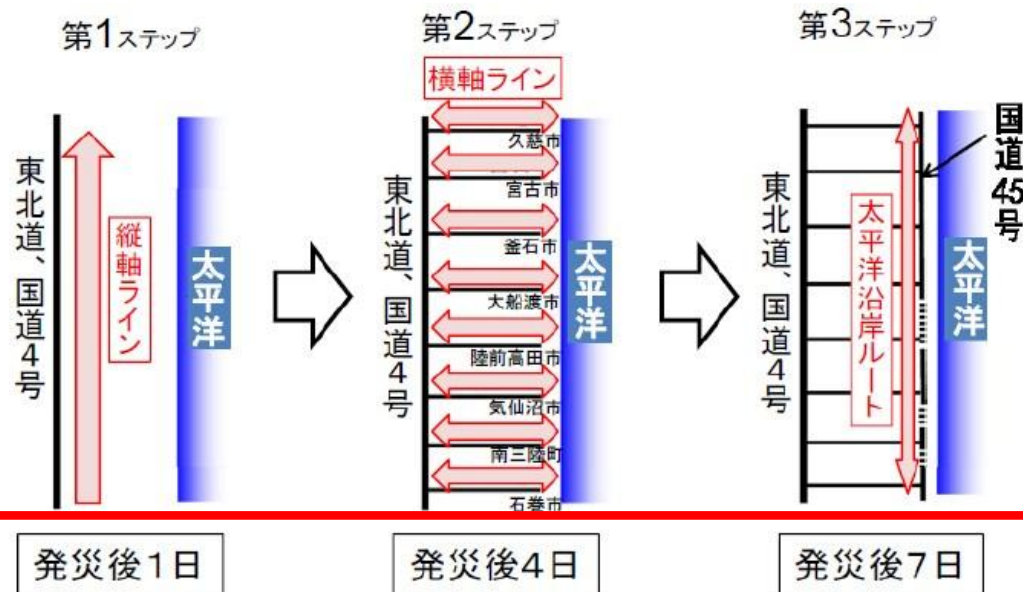
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

東日本大震災の事例 (くしの歯作戦)

- 救命・救援ルート確保のため、被災地域へのルートを切り開く「**道路啓開**」が求められた
- 内陸部の高速道路・国道から、沿岸部に伸びる国道を切り開く「**くしの歯作戦**」が実行された



- 第1ステップ 東北道、国道4号の縦軸ライン確保
- 第2ステップ 東北道、国道4号からの横軸ラインを確保
3/12: 16本のうち、11ルートの東西ルートを確認
3/14: 14ルートの東西ルートを確認
3/15: 15ルートを確認
- 第3ステップ 3/18: 国道45号、6号の97%道路啓開(作戦終了)



沿岸の主要幹線道路を約1週間で啓開

図：東日本大震災時の「くしの歯作戦」

図：東日本大震災後における啓開方針

4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

東日本大震災の事例 (くしの歯作戦)



4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

令和6年能登半島地震の事例

- **1月1日16時10分頃**、石川県能登地方を震源(深さ16km)とする**震度7の地震が発生**、気象庁は**大津波警報**を発表
- **1月2日から幹線道路の緊急復旧に着手**、各建設業協会や日本建設業連合会の応援を受け、緊急復旧作業を順次実施
- 沿岸部では被災箇所が多数確認され、**自衛隊と連携してくしの歯状の緊急復旧を実施**
- 孤立集落は1月19日に実質的に解消(1月8日に3345人が孤立→1月19日までに26人まで減少)

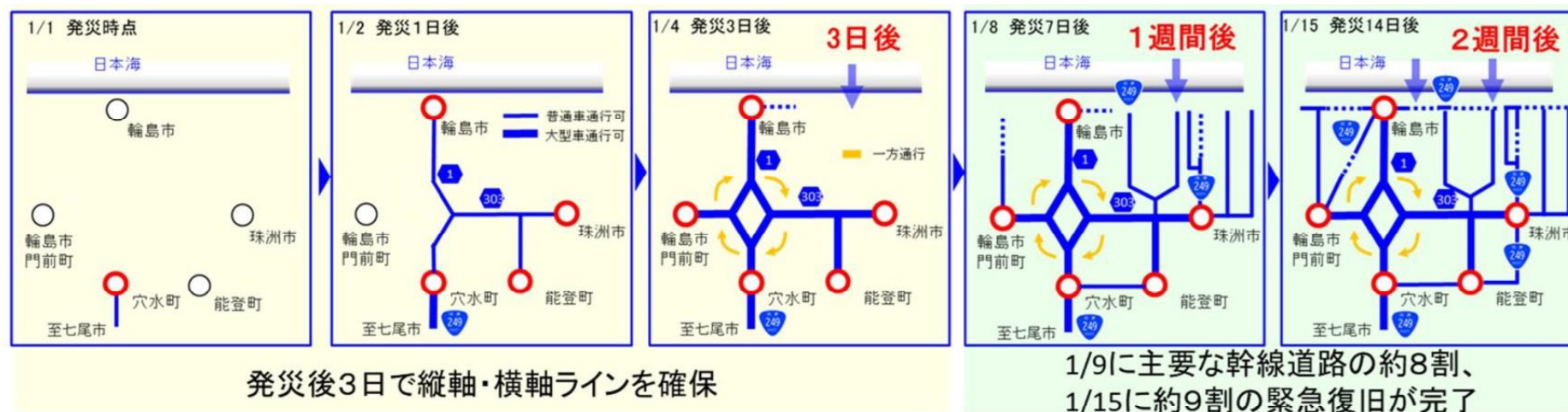


図：令和6年能登半島地震
道路の緊急復旧状況

4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

令和6年能登半島地震の事例

- 1月2日 七尾市から、輪島市役所、珠洲市役所、能登町役場まで普通車での通行を確保
- 1月4日 輪島市役所、珠洲市役所、能登町役場まで大型車での通行を確保、縦軸・横軸ラインを確保
- 1月8日 「くしの歯」の「歯」となる幹線道路の緊急復旧を継続、能登半島内陸及び海側から7ルート確保
- 1月15日 日本海側へ9ルートを確保し、緊急復旧を加速、主要な幹線道路の約9割で緊急復旧完了



○緊急復旧(道路啓開)作業の様子



写真①
県道1号 輪島市三井町での啓開作業(1月3日撮影)



写真②
ホバークラフト型揚陸艇による重機運搬(自衛隊との連携)
深見海岸 海側からの重機運搬(1月14日撮影)



4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

令和6年能登半島地震の事例



崩壊箇所の啓開作業状況



崩壊箇所の啓開作業後



崩壊箇所の啓開作業状況



崩壊箇所の啓開作業後



4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

令和6年能登半島地震の事例



被災状況



啓開後の状況



啓開作業状況



4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

令和6年能登半島地震の事例

- 国道249号輪島市町野町大川地内の天神橋端部で発生した段差の状況(応急復旧後の状況)



4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

令和6年能登半島地震の事例

- のと里山海道(自動車専用道路)の横田IC(七尾市中島町横田)で発生した大規模な盛土崩壊の状況



4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)

令和6年能登半島地震の事例

- 国道249号輪島市町野町大川地区で発生した路面亀裂の状況

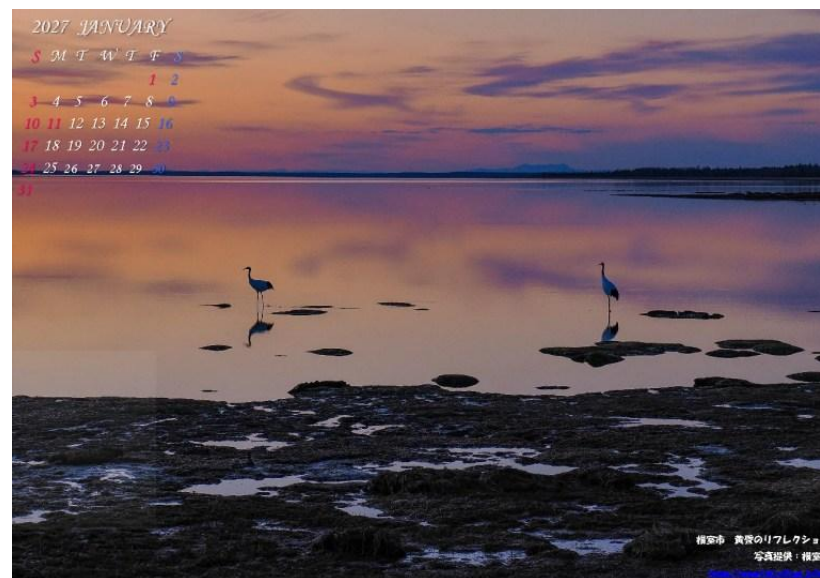


釧路・根室地域における道路啓開計画 ～大規模地震・津波に備えて～

1. 釧路・根室地域の概要
2. 釧路開発建設部管内の概要
3. 道路啓開とは
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)
5. 全国各地域の道路啓開計画について
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要



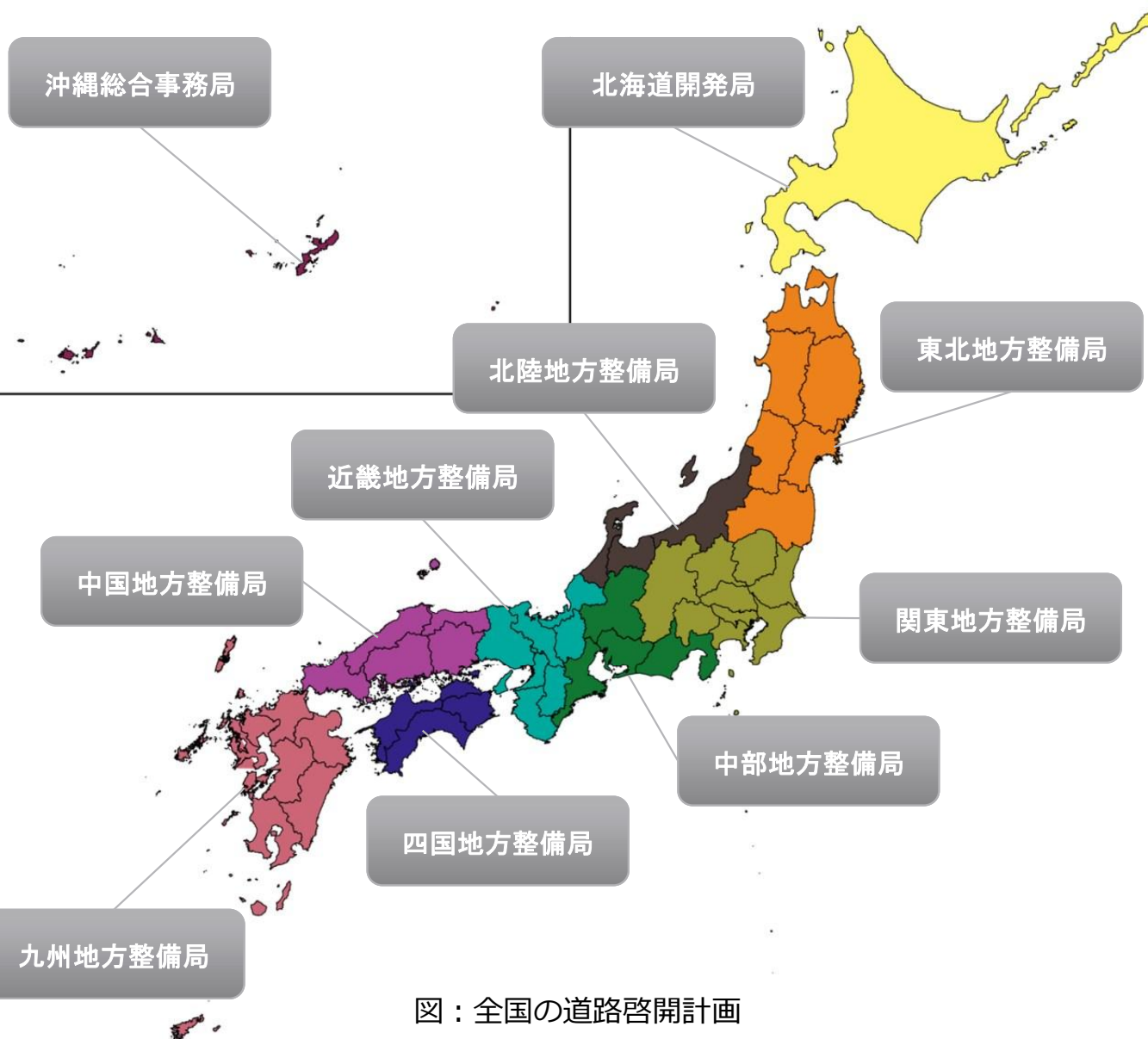
標津町 茶志骨 写真提供:標津町



根室市 黄昏のリフレクション 写真提供:根室市

5. 全国各地域の道路啓開計画について

- 東日本大震災、能登地震を契機に、**道路啓開計画を法定化**。
- **全国的**において、実効性のある**道路啓開計画**を策定。



各地域	最新策定年月日
北海道開発局	令和8年3月31日
東北地方整備局	令和8年3月25日
関東地方整備局	令和8年3月25日
北陸地方整備局	令和7年12月25日 (令和8年4月1日一部改訂)
中部地方整備局	令和8年3月25日
近畿地方整備局	令和8年3月27日
中国地方整備局	令和8年3月27日
四国地方整備局	令和8年3月27日
九州地方整備局	令和8年3月25日
沖縄総合事務局	令和8年3月24日

表：各地域における道路啓開計画の
最新策定年月
(道路法(昭和27年法律第180号)
第22条の3に基づく「道路啓開計画」の策定)

出典：国土交通省HP

図：全国の道路啓開計画

釧路・根室地域における道路啓開計画 ～大規模地震・津波に備えて～

1. 釧路・根室地域の概要
2. 釧路開発建設部管内の概要
3. 道路啓開とは
4. 過去の大規模地震・津波災害(道路啓開事例)
5. 全国各地域の道路啓開計画について
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要



弟子屈町 川湯遊歩道 写真提供:弟子屈町



釧路町 旧岩保木水門 写真提供:釧路町

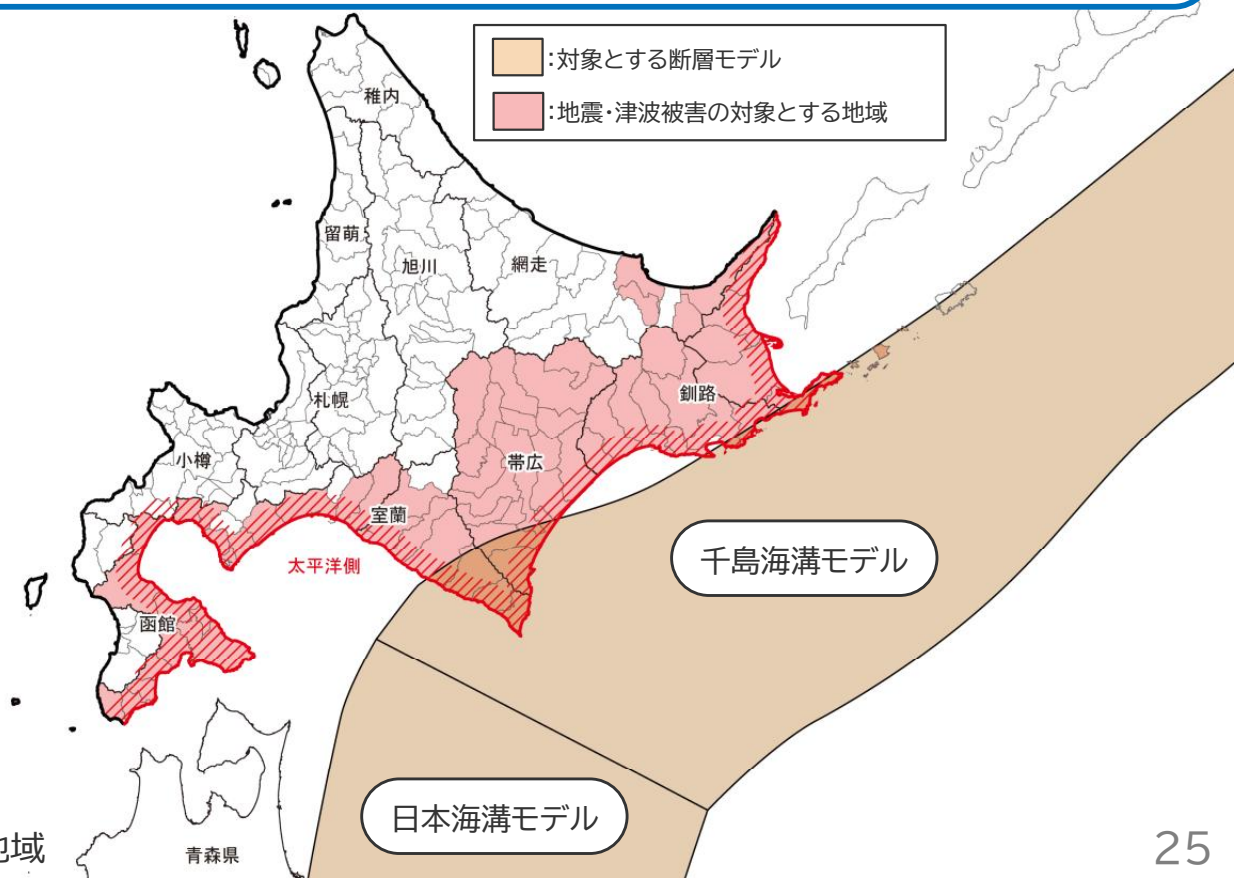
6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

計画の目的

- 令和6年1月に発生した能登半島地震においては、ライフラインの早期復旧、孤立集落への交通確保等のための道路啓開の重要性が改めて認識された。この教訓を踏まえ、令和7年に道路法が改正され、道路啓開計画の策定が法定化された。
- 北海道において大規模な災害が発生した場合の緊急輸送を確保するため、道路法第22条の3に定める道路啓開計画を策定し、関係機関との連携・協力により、道路啓開の実効性を高めることを目的とする。

対象となる災害の種類

- 対象とする災害は、千島海溝地震、日本海溝地震とする。
- 対象エリアは、震度6弱以上の地域と津波による被害が想定される地域(太平洋沿岸を中心とした63市町村)とする。



図：道路啓開計画立案の対象地域

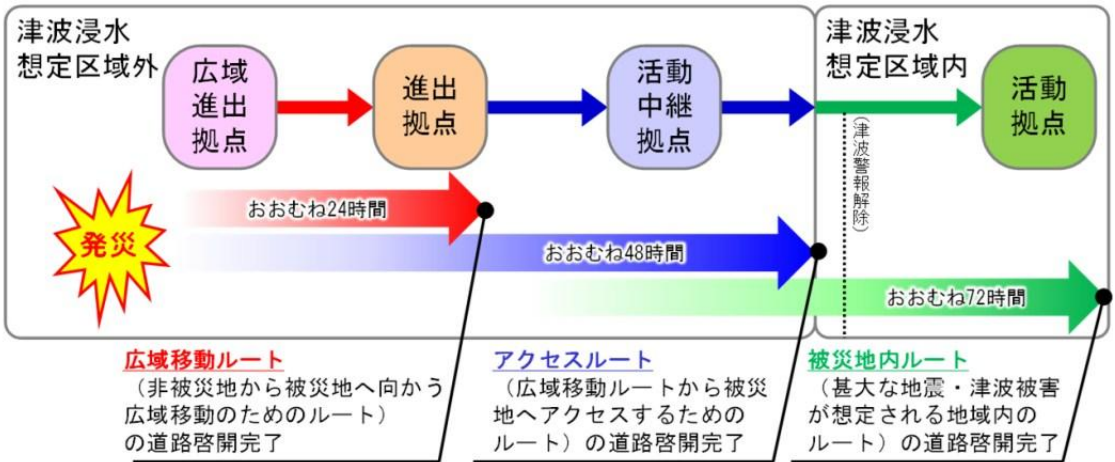
道路啓開の目標

- 発災後、概ね72時間以内の道路啓開を目標とし、啓開拠点と連絡する緊急啓開ルートを設定。

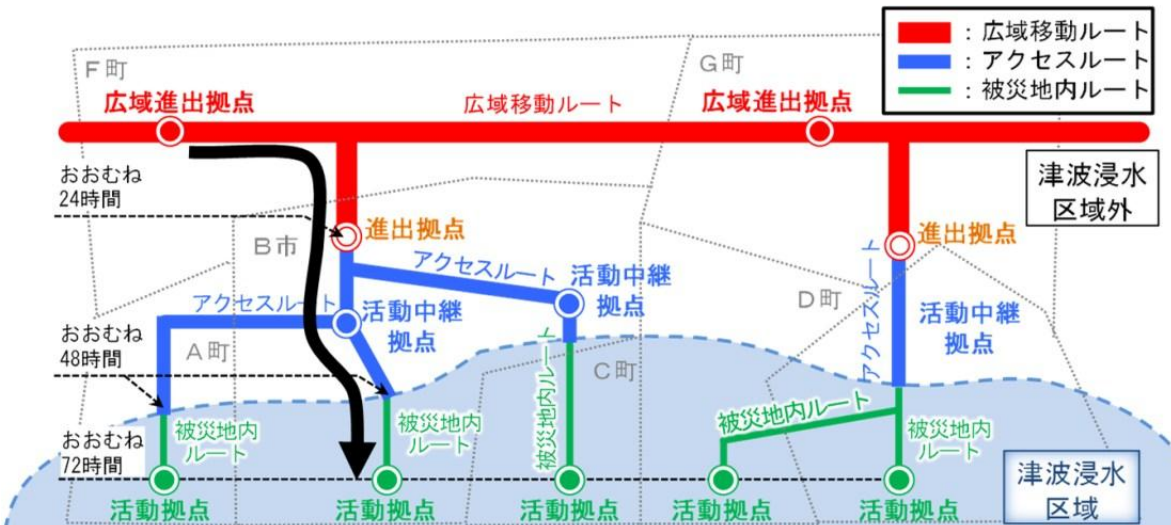
表：啓開拠点、優先的に啓開する路線

広域進出拠点	●	災害発生直後、直ちに広域応援部隊が被災地方面に向かって移動する際の目標となる防災拠点
進出拠点	◎	広域移動ルートから被災地(活動拠点)に向けたアクセスルートとを接続する防災拠点
活動中継拠点	●	活動拠点へアクセスする際に被災地に最も近い拠点となる防災拠点
活動拠点	●	被災地の啓開の拠点となる防災拠点

広域移動ルート (24時間以内を目標)	—	広域進出拠点および進出拠点間を結ぶ、各部隊等の広域的な移動のためのルート
アクセスルート (48時間以内を目標)	—	進出拠点と被災地内ルートを接続するルート ルート上に活動中継拠点を設定可能なルート
被災地内ルート (72時間以内を目標)	—	甚大な地震・津波被害が想定される地域内のルート



図：道路啓開目標

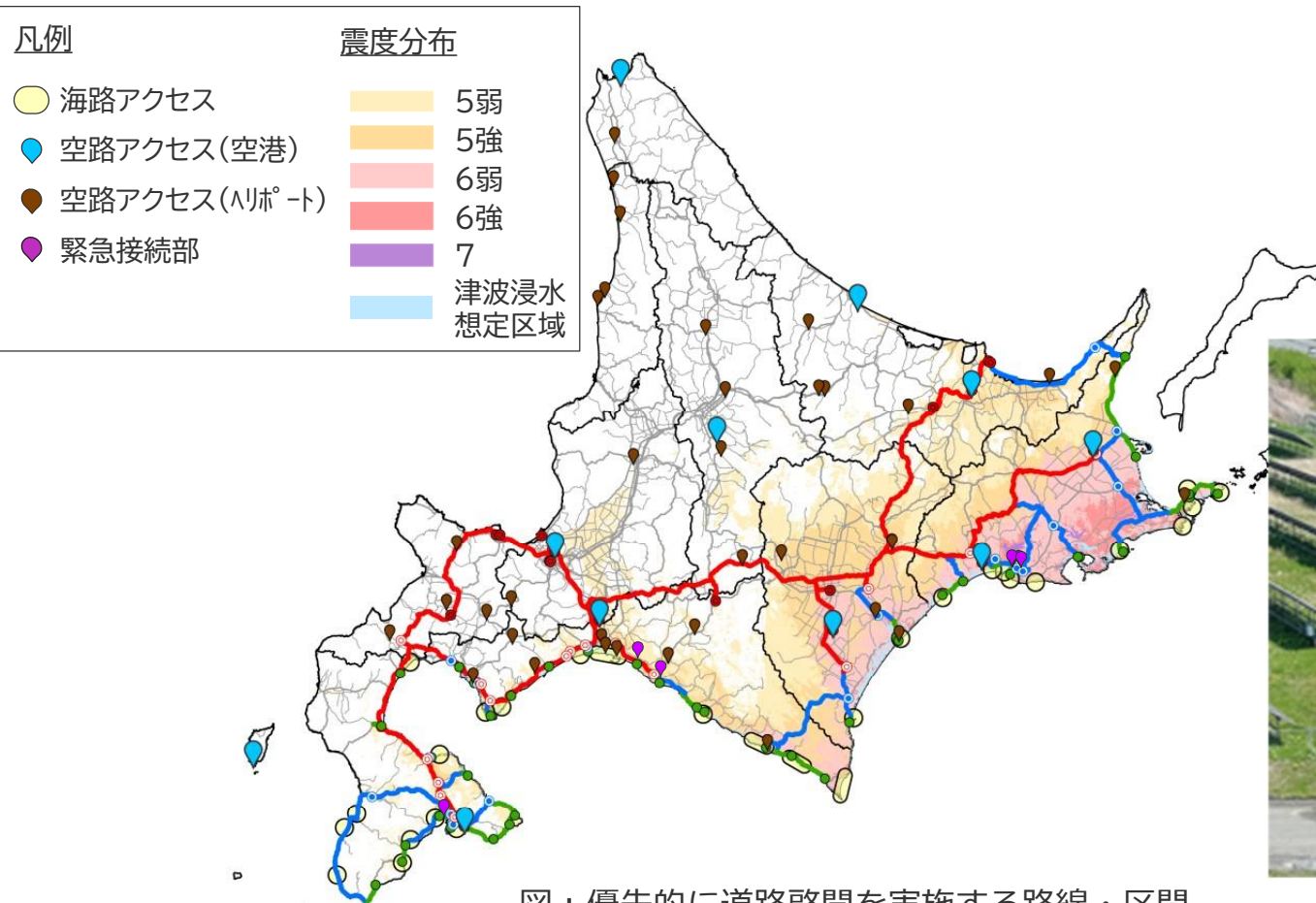


図：緊急啓開ルートのイメージ

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

優先的に道路啓開を実施する路線・区間

- より迅速な道路啓開作業を可能とするため、あらかじめ海路・空路から揚陸・離着陸可能なアクセスポイントを設定。
- 津波浸水想定エリアにおける迅速な救援・物資輸送を確保するため、高速道路等のIC以外からのアクセス路となる「緊急接続部」について、必要に応じて設置を検討。



図：優先的に道路啓開を実施する路線・区間



図：緊急接続部（道東自動車道）

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

道路啓開の方法

- 緊急啓開ルートにおいて、道路啓開作業を実施する担当会社を区間ごとに設定。
- 発災直後の円滑な道路啓開に向けて、道路法22条の3に基づき、国が本来道路管理者に代わって道路啓開を行うことができる路線・区間（「直轄啓開予定道路」）を設定。
- 直轄啓開の発動条件は、釧路・根室地方で根室市を含む複数の市町村で震度6強以上を観測する地震が発生した場合とする。

直轄啓開予定道路（代替路含む）における平時からの取組

- 国による定期巡回（パトロール）や合同現地確認・訓練の実施による現地状況の把握
- 本来道路管理者が有する情報（道路台帳・構造物台帳など）の共有

表：直轄予定道路

路線設定の考え方	根室半島において、被災地内ルートのうち活動拠点までの主軸となる区間として「根室市役所から根室港及び根室市歯舞会館（根室市歯舞支所）にアクセスする路線・区間」を設定
直轄啓開予定道路	【道管理道路】（合計 約22km） 道道313号 根室港線、道道35号 根室半島線、道道989号 豊里歯舞線
代替路	【道・市管理道路】（合計 約10km） 道道35号 根室半島線、市道牧の内3号線、道道1064号 友知牧之内線



図：直轄啓開予定道路（根室半島）

- 道路啓開作業を実施する路線・区間の被災想定を踏まえ、資機材の必要量を算出。
- 道内の資機材備蓄量を確認・整理。不足する資機材は、道内で調達（広域支援）。
- 想定以上の大規模な被害や、地域内の建設業者の被災（出勤不可）等も考慮して、地域内で対応可能な場合においても応援地区を設定。

資機材の調達計画

土のう (袋)
大型土のう (袋)
土砂 (m3)
油圧ショベル
ブルドーザー
ホイールローダー

図：資機材の調達計画

29

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

実践的な訓練

- 道路啓開計画の実効性を担保するため、災害発生を想定した初動対応訓練や土砂・ガレキ、倒壊電柱および倒木の撤去訓練など適宜組み合わせ、年1回以上、定期的を実施。
- 訓練には、道路管理者のほか、自衛隊、警察、消防、建設関連団体、ライフライン事業者、福祉、災害支援の協議会構成員の協力のもと、実践的な訓練を実施し、実効性向上を図る。

訓練項目	訓練概要
①啓開路線・区間の被災情報等の収集や、啓開作業を実施する建設業者等への情報の伝達を行う情報収集・伝達訓練	・ドローン、自転車等を活用した被災地調査及び#9910LINEやCar-SAT等の防災ICTを活用する情報収集訓練 ・衛星画像、被災地調査結果等の情報を災害情報共有システム等で収集・伝達する情報共有訓練 ・関係機関との被災状況、道路啓開状況の情報伝達訓練 ・24条承認特例の実施に関する連絡調整
②孤立集落解消やライフラインの迅速な機能復旧に向けた、優先ルートの選定訓練	・道路の被災情報、孤立情報、ライフライン被災状況等を踏まえ、海路・空路の活用も含めた道路啓開優先ルートの選定訓練
③土砂・ガレキ・流水撤去や車両移動等の訓練	・通信途絶時を想定した通信確保訓練（スターリンク、K-λ等） ・災害協定企業等と自衛隊が連携した土砂・ガレキ撤去、橋梁段差解消や積雪寒冷地特有の流水撤去等訓練 ・消防と災害協定企業等が連携する救助訓練 ・放置車両の移動訓練
④倒壊電柱や倒木の撤去訓練	・電力会社と連携した通電安全確認と電線切断・取り外し訓練 ・災害協定企業等による倒木と倒壊・傾斜電柱の移動撤去訓練
⑤海路、空路等を活用した啓開ルート確保訓練	・②の訓練に基づく、海路・空路のアクセスを踏まえた陸海空の拠点、ルート選定および連携手順等の確認訓練

表：訓練メニュー

表：訓練年次計画（案）

	訓練メニュー	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
情報収集・共有・調整訓練	①情報収集・伝達訓練		○			○
	②優先ルート選定訓練	○		○		
実動訓練	③土砂撤去・車両移動訓練	○	○	○	○	○
	④電柱・倒木撤去訓練	○		○		
	⑤海路・空路ルート選定訓練		○		○	



ドローン飛行訓練



ルート選定訓練



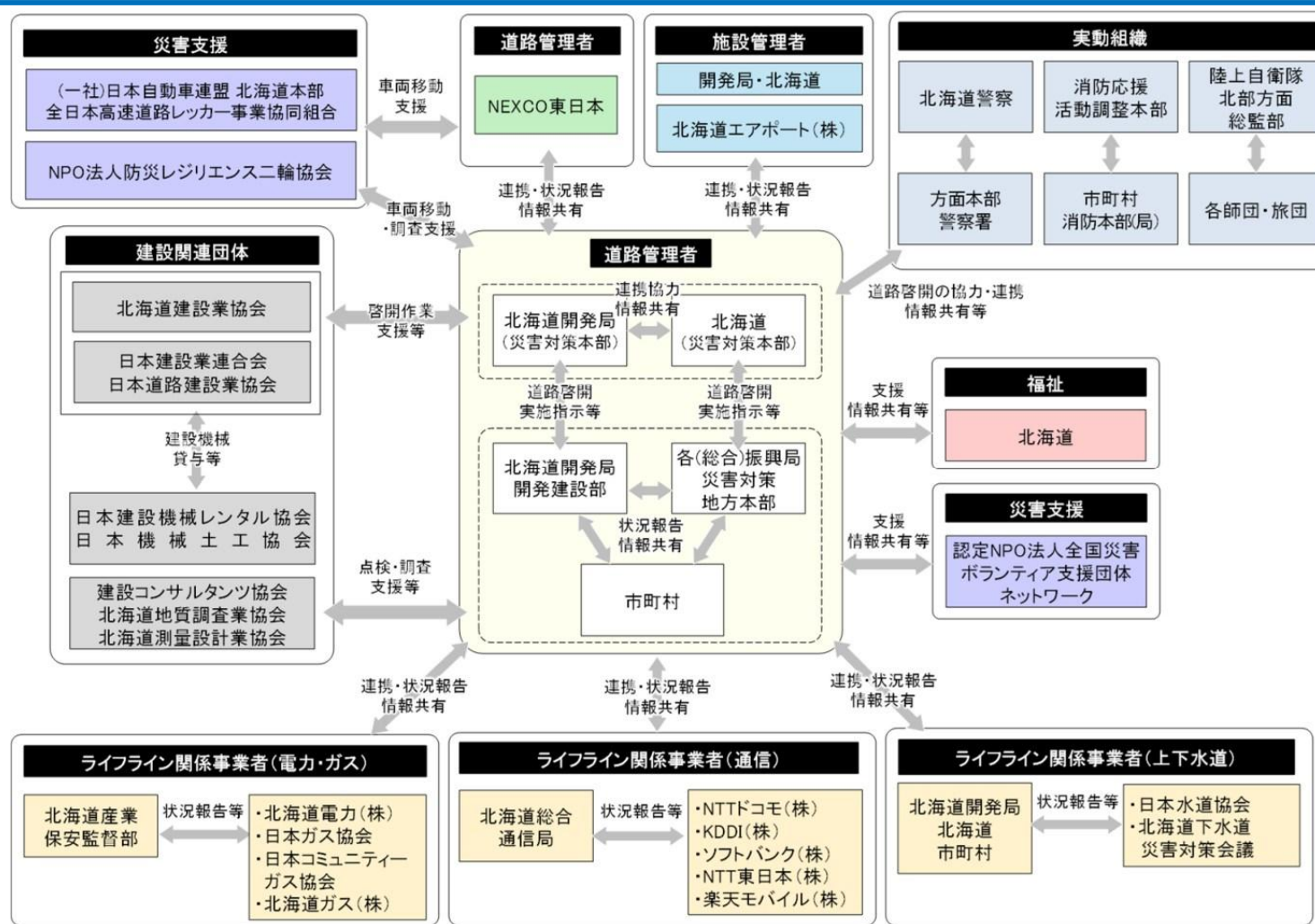
K-λ通信訓練

写真：訓練イメージ

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

情報収集・伝達

- 道路啓開作業時の関係機関との円滑な連携、情報の共有及び対応協議・調整等が可能となるよう、連絡体制・系統図を作成し、孤立集落情報やライフラインの情報を収集する体制を構築。
- ライフラインや公共交通に関する被害情報については、各種協議会より情報収集し、これらの情報を共有することで、道路啓開路の調整に資するものとする。



図：連絡系統図

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

定期的な計画の見直し

- 計画策定は、道路管理者及び関係機関で構成する「北海道道路啓開計画協議会」での審議及びワーキンググループで議論のうえ作成。
- 策定後は、以下に示す方針に基づき、定期的に計画を見直す。
 - ① 5年に1回を基本として、全体的な計画内容を精査し、必要に応じ見直し。
 - ② 北海道地域の被災想定の見直し、地域防災計画の改定、緊急輸送道路の整備進捗、今後の災害における教訓、訓練による課題等を踏まえ、5年を待たずに見直し。
 - ③ 道路整備の進展、建設業者の体制、資機材の備蓄・調達、連絡系統等については、1年に1回を基本として状況を確認し、関係機関と共有。

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

道の駅の活用

- 災害時の「道の駅」の迅速な活用と防災機能の強化に向け、各「道の駅」の位置や防災機能の現状を地図上で整理。
- 広域移動ルート上の主要な「道の駅」として、広域進出拠点2箇所と進出拠点4箇所を位置づけて活用。
- 各施設の基本諸元や防災設備・施設情報をリストに整理

【広域進出拠点】

- 道の駅「樹海ロード日高」
- 道の駅「ニセコビュープラザ」●▲

【進出拠点】

- 道の駅「虫類」●▲
- 道の駅「YOU・遊・もり」▲
- 道の駅「くろまつない」
- 道の駅「流水海道網走」

- : 防災道の駅
- ▲ : 防災拠点自動車駐車場



図:道の駅「ニセコビュープラザ」(写真)



図:道の駅「YOU・遊・もり」(写真)

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

道路啓開ルートへのリスク整理

- 啓開ルート上のリスク(橋梁被害、盛土・法面の崩壊等)を事前に把握し、図示。
- 把握した被災リスクを踏まえ、啓開ルートの代替路を事前に設定。



津波による橋梁流出



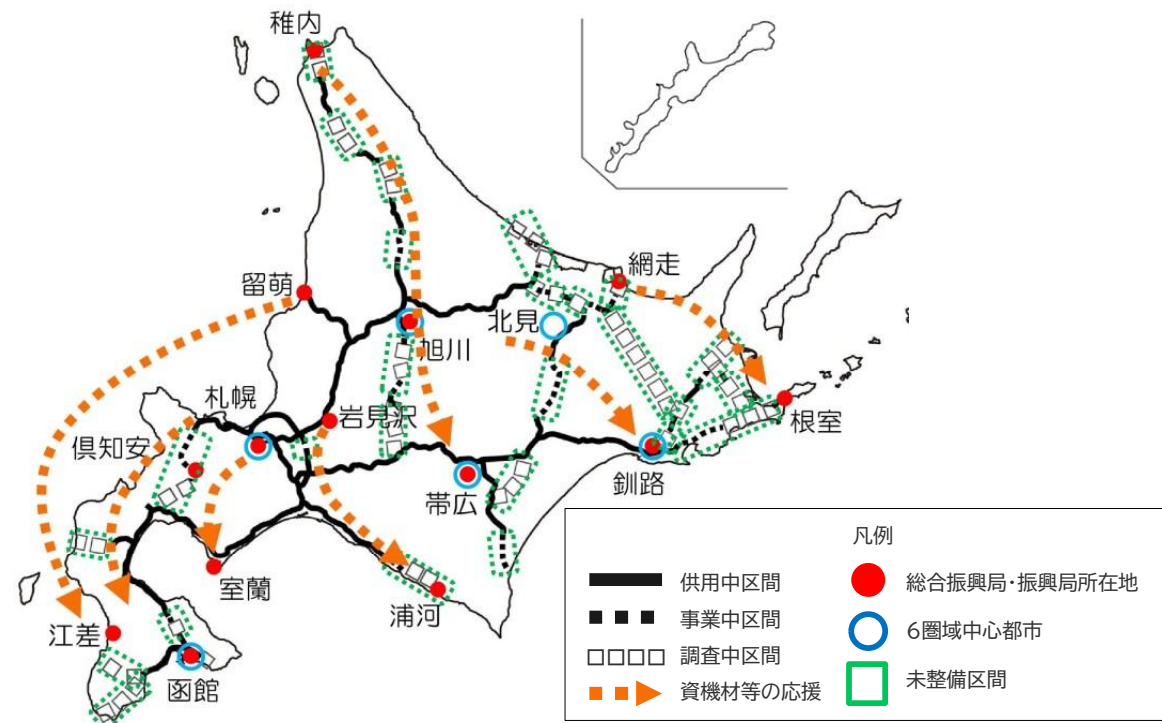
地震による法面崩落

図：被災リスク整理図イメージ

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

地域の道路ネットワークの課題等の整理

- 千島海溝地震、日本海溝地震を想定した道路啓開の実行には、道路ネットワークにいくつかの課題。
- 北海道は、広域分散型の地域構造で、道路ネットワークの密度が低く、広域移動ルートとなる高規格道路には未整備区間が残存。
- 津波被害が想定される太平洋沿岸部の未整備区間では現道が被災し、道路の脆弱性が課題。
- 根室半島は外周道路に沿って集落が形成され、広範囲で津波浸水被害を受け、橋梁流出やガレキ堆積など甚大な被害が想定される。
- 高規格道路の未整備区間の解消を図り、災害時にも機能する道路ネットワークの構築が必要。



図：高規格道路の開通状況（令和7年12月現在）

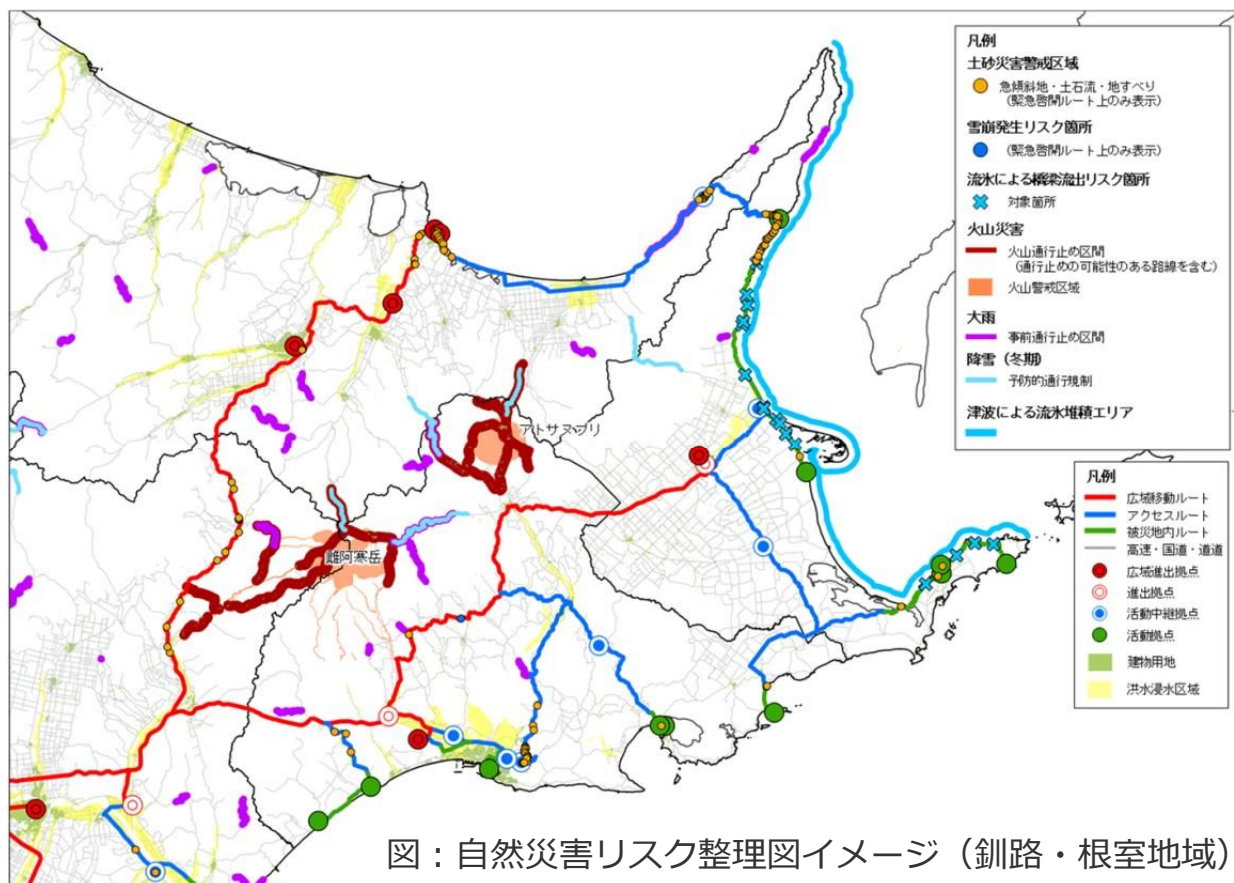


図：根室半島のネットワーク課題図

6. 北海道道路啓開計画【地震・津波災害編】の概要

他の自然災害との複合災害

- 火山災害や雪害、風水害が同時又は後発で発生する場合には、被害の激化、広域化、長期化が懸念。
- このため、地震・津波発生後に火山噴火や大雨、大雪が加わる複合災害を想定し、その被災シナリオを設定。
- シナリオに基づき設定した、リスク等を地図上に整理し関係者間で共有。



図：自然災害リスク整理図イメージ（釧路・根室地域）

- ・火山：火砕流や火砕サージ、降灰等の火山噴火に伴う道路の被災や通行止め
- ・雪害：大雪や吹雪による交通障害や雪崩による被災及び雪による予防的通行規制
- ・風水害：①河川氾濫に伴う道路の浸水や通行止め（洪水浸水想定区域）
②土砂災害警戒区域の急傾斜地崩壊

7. おわりに

- 道路啓開計画は、策定して終わりではなく、訓練や実際の災害の教訓を踏まえながら、継続的に見直し・改善していくことが重要。
- 関係機関の皆様とも連携しながら、より実効性の高い計画へとブラッシュアップを進め、災害時に確実に機能する道路啓開の実現を目指していきたい。

ご清聴ありがとうございました。